

ジェンダーから自由になろう

一人ひとりが尊重され多様で公正な社会を

あかしあ法律事務所
明日の自由を守る若手弁護士の会・倉重 都 弁護士に聞く



感想はこちら

ジェンダーからの自由

【頭の体操】お父さんと息子が交通事故に遭いました。父親は死亡が確認され、息子は頭を強く打ち、世界的に有名な脳外科医のA医師がいる病院に運ばれました。A医師は、この子を診察しようとしたとき、顔色が変わりました。「この子は、私の息子です！」『あれ？ 父親が亡くなったのに、A医師もお父さんなの？』と思った方おられませんか。

この文章は、無意識に根付いたジェンダー意識が表れます。A医師はこの子の母親なのです。

昨今、ジエンダーという言葉が浸透しています
しかし、この言葉を正確に理解している方は少ない
ようです。

ジェンダーって何だろう？

ジエンダー(gender)とは、社会的・文化的・恣意的・願望的に作られてしまった「男性」「女性」の固定概念やイメージ・性役割・性差のことです。ここで大事なのは、実際に本當にある性役割・性差ではなくてほしい、あるいは、あると勘違いしている性役割・性差のことです。

この概念とは全く区別されるのが「性別(sex)」です。「性別」とは、染色体の差から生じる科学的・生物学的な性の別のことです。実際に本當にある性差です。例えば、生理・妊娠出産・身体構造・ヒゲ・骨格・声などです。

「ジェンダーの像をいじつがおいまで、育児に女性は家事が苦手」「女性は裁縫が得意」「女性は話が長い」などです。ジェンダーは、私たちが思い込んでいるもので、性別による役割を押し付ける方便として利用されてきたとも言えます。

「ジェンダー平等」という言葉が性差別の解消を意味して使われていますが、ジェンダーの意味を正確に捉えるならば、眞に目指すべきは「ジェンダーからの解放」ないしは「ジェンダーからの自由」だと

**男女差別はどこから？
女性の困窮が深刻なのはなぜ**

明治維新で封建時代は終わりを告げましたが、日本は絶対主義的天皇制を支えるため家父長制をとり、男尊女卑の構造は「教育勅語」などにより強化されました。家庭では夫が「主」、妻が「従」という概念により性別分業を前提とする社会構造がつくられたのです。

早く実現したいですね。

早く実現したいですね！

(※3) マジヨリティと特權 マジヨリティは、ついにノリティ(社会的少数民族)に対して、性別、学年、民族などのアイデンティティにおいて数の多さを指します。マジヨリティ性により差別や偏見への対象とならずに済んでいる恩恵を特權と呼びます。

民医連
HP 

ジエンダーからの自由について 考えてみましょう

ここもチェック

- ジエンダー差別の解消を目指し何ができるでしょう。「男らしさ」「女らしさ」について気づいたことを出し合ってみましょう。
- 女性をはじめとする深刻な困窮実態に対して、国や自治体による支援はされているでしょうか。調べてみましょう。
- 今年3月、「同性婚を認めないことは違憲」との判決が出されました(札幌地裁)。性的多様性について学びを広げてみましょう。「SOGI」(ソジ・ソギ)を検索してみましょう。

ジェンダーギャップ指数から見る日本の遅れ

国会議員に占める女性の割合は、ノルウェー(同指數3位)は1970年の9.3%から2021年には44.4%へ、スウェーデン(5位)は14.0%から47.0%へ改善していますが、日本(120位)は1.6%から9.9%です。経済界の管理職の女性の割合も日本は現在17.3%(平均34.9%)です。上位国の中では、保育料や学費無償化、医療費無料、
育児と仕事の両立や老後の保障を国民の安定した雇用と一体に整備しています。

日本	2021年		2006年		※2006年は指標公開初年
	ギャップ指數	順位	ギャップ指數	順位	
総合	0.656	120位	0.645	80位	
政治	0.061	147位	0.067	83位	女性議員比率
経済	0.604	117位	0.545	83位	賃金・管理職比較差など
教育	0.983	92位	0.986	60位	大学など高等教育進学率格差
健康	0.973	65位	0.980	1位	健康寿命男女比など
	156位圏		115位圏		

※ギルバード指数は男女格差がなければ、1,000となる

セクハラ(sexual harassment)という言葉は、一九七〇年代に生まれたそうです。今ではそこから派生したパワハラ(power harassment)という和製英語とともに、すっかり市民権を得ました。また、これらは法律実務においてもよく使われる言葉です。例えば、セクハラやパワハラは、「不法行為(民法709条)に該当するとされ、損害賠償の対象にもなり得ま

harassment)は、教授や学校の先生など、学術機関における学問上の指導的立場を利用して嫌がらせをすることをいい、パワハラの一種です。他にも、逆パワハラ、マタハラ、スメハラ、ロジハラ、モラハラ、アルハラ、ドクハラなどなど、世間で言われている「ハラ」を挙げればキリがあります。これらもハラスメントの一種とされていて、あなたたちはこれらの「ハラ」の意味が分かりますか。また、あなたたちはいくつの「ハラ」を挙げられますか。

このようにたくさんの「ハラ」がありますが自分が嫌な気持ちになつたからといって、なんでもかんでも「人権侵害だ」「○○ハラスメントだ」とレッテルを貼つて相手のせいにすればよいわけではありません。

もつとも、世の中でどのような「ハラ」の存在が唱えられているかは、多くの人が職場や人間関係で普段どのような点を不快に感じているか

を考えるのにはとても役立ちます。他の人々はどのような「ハラ」を感じているのか調べてみましょう。あなたが知らず知らずのうちに生み出してしまっている「ハラ」は無いでしようか。

あすわか弁護士
片木翔一郎

